

※定員のある事業については、2月1日から(9:00～17:00まで、日・祝は除く)受付します。先着順のため定員になりしだい締め切ります。幼児については、保護者同伴をお願いします。必ず上靴を持ってくるね!

日	時間	事業名	内容	定員
2月 5日(土) 12日(土) 19日(土) 26日(土)	14:00～16:00	子ども広場	<b>「将棋広場」</b> ～初めての人・少しでも興味を持った人は、気軽に参加してください～ 対 象:おおむね小学1年生～6年生 ※開催日が変更になる場合があります。	なし
2月 5日(土)	10:00～11:30	おもしろ教室	<b>「プチマフラー作り」</b> ～簡単にできる手作りマフラーを作ってみませんか～ 持 物:毛糸(極太)2玉/人 ※広報はびきの1月号より募集しているため、定員に達している場合があります。ご了承ください。	15人
2月12日(土)	11:00～11:40	おもしろ教室	<b>「マジックショー」</b> ～あつと驚くマジック(手品)を見せてもらいます!～ 場 所:青少年児童センター 図書室 ※満席の場合は、入場をお断りする場合がございますので、ご了承ください。	なし
2月17日(木)	10:00～11:30	子育てセミナー	<b>「親子体操」</b> ～親子で楽しく体を動かそう!～ 講 師:山本尚明氏(体育文化指導協会) 場 所:青少年児童センター 体育館 持 物:水筒・タオル・着替え・親子とも体育館シューズ ※定員はありませんが、初めてのの方は事前に申し込みが必要です。	なし

## サラダボール

## 園長先生からの直言

「いかにいます父母 つつがなしや友がき」と唱歌『故郷』を歌って、いつも親や友だちの身を気遣ってきた若者の暮らしはどこへいったのでしょうか。

エレン・ケイによって「児童の世紀」と名付けられた20世紀は、人は日々進化の道を歩み続けている、とりわけ子どもは未来に向かって成長発達するものであるから科学の対象として研究されて、その成長発達を支援することはプラスの価値として考えられました。でも、20世紀末の子どもの現状はこうした楽天的な思想に大きな疑問を投げかけました。そして、21世紀は人権の時代に入りました。子どもは、孤立と違い、孤独には慣れさせられるものらしいのです。

私の娘家庭は子どもを持つ共働きです。家事や育児は夫婦で分担していますが、身近に私たち親がいないため、夫婦とも仕事が多忙な場合には、そのしわ寄せは子どもたちに

行くこととなります。

保育園へのお迎えが遅くなると、その分夕食から入浴、就寝時間も遅くなります。そんなときに保育園の園長先生から厳しいことばを受けること聞かされました。

「お手伝いムリ、ムリもない子。子どもが疲れているのは、親が疲れるほど仕事するよってでしょ。もっと早くお迎えに来ないとね」とのイエローカードがでるらしいのです。

「延長保育」は、働く親にとって都合な制度の拡充策で、ともすれば子どもの視点が抜け落ち、子どもにとっては負担が増えることになるのではないのでしょうか。そして、自分さえいなければママはしんどくないと思う子どもが増える可能性もあるのではないのでしょうか。

お隣へ回覧板を回すなどのお手伝いを通して、親子の会話はもちろん近所の人々のお付き合いも出てきて、コミュニケーション能力や家

族以外との人間関係の作り方を学ぶことができるでしょう。

自分の役目をもらい、きちんとこなすことで使命感も芽生え、家族のひとりと自覚もできるでしょう。お掃除を通して汚さないようにすればいいことに気が付き、人の気持ちにたって思いやれるようになるでしょう。

仕事のあまり親は自己中心的になり、子どもの視点を忘れて行動してお手伝いを取り上げてしまいがちです。そんなとき重要なのは、子どもの立場に立って考えることを気付かせてくれる「園長先生」的な存在ではないのでしょうか。

娘婿は娘からの「SOS お迎えの代行よろしく」メールが来ないかヒヤヒヤ、自分の仕事でイライラも、園長先生から何か言われるだろうかドキドキ、でも「園長先生」のありがたみを忘れないようにしたいとつぶやいています。

(人権推進課)